

【大会に参加する皆さんへ】

- ・大会によってクラスター発生・感染拡大が生じないように、日頃から感染予防対策を徹底してください。やむを得ず感染してしまうケースもあるため、その患者や家族への人権に配慮し、偏見や誹謗中傷を生み出さないことが重要です。
- ・チーム(対戦相手も含む)及びスタッフ、審判員、大会関係者が安全に、安心して軟式野球を楽しむためにも、「体調不良でない者」かつ「感染予防対策を日頃から行っている者」が大会に参加してください。
- ・軽微な症状でもウイルスを保持し、他者へ感染させる可能性があります。軽い風邪の症状を見逃さないことが大切です。熱中症や風邪の症状と、感染症状は似ています。体調がおかしいと感じたら、積極的に休むことが大切です。
- ・夏季は熱中症にも注意すること。

熱中症と風邪の症状、新型コロナウイルス感染症の初期症状は似ており、かつ若年者の場合にはより症状に乏しいことから、見分けることは困難です。また、感染力の強い変異株(α株・δ株)の出現により、これまで感染しなかった場合での感染の報告も増加している。従って、体調がおかしいと感じたら「積極的に休むこと、休ませること」を徹底してください。

また、判断に迷った場合は、病院を受診するか「受診・相談センター」に問合せてください。

■静岡県発熱等受診相談センター

TEL：050-5371-0561 (土日祝日を含む24時間)【静岡市以外の市町村】

TEL：054-249-2221 (土日祝日を含む24時間)【静岡市内】

- ・大会参加者は「接触確認アプリ(COCOA)の活用を推奨する。
- ・指導者ならびにチーム代表者は選手の異変に敏感になり、選手及びスタッフの健康チェックのみならず、そのご家族の健康状況にも変化が無いかわく情報収集を心がけ、チーム内でクラスターが発生しないように注意を払ってください。
- ・本紙は、本大会に参加する選手及びチーム関係者、審判員、大会運営者の全ての皆さんの感染予防対策ガイドラインになります。ガイドラインを遵守し感染予防対策を実施していただきますようお願いいたします。

【1. 共通感染予防対策】

※新型コロナウイルスワクチンの接種の有無に関わらず、全ての競技者・関係者が継続的に行いましょう。

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメントに係る  
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【選手・チーム関係者用】

①毎日の健康チェックと行動記録

- ・体温測定：起床直後、球場への出発前等決まった時間での体温記録。
- ・行動記録：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間等を「健康チェック表・行動管理シート」に記録すること。

※健康チェック表・行動管理シートは、大会2週間前から各自記入すること。尚、大会本部より提出を求められた際には、速やかに提出できるように準備しておくこと。

※体温が37.5℃以上及び発熱症状がある場合、倦怠感、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常、息苦しさ(呼吸困難)などの体調不良が見られる場合は、勇気を持って休む。同居者に上記症状等がある場合も同様。

②マスクの着用

- ・競技およびウォームアップ実施時以外の常時マスクの着用。熱中症には十分注意する。
- ・日常的にマスクを着用し、移動中の着用にも努めること。
- ・マスクを外さざるを得ない場合には、ソーシャルディスタンス(2m)が保たれていない状況下での会話・声掛け・大声は控える。
- ・競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については相手との距離や飛沫を考慮し、一定の距離(2m程度)を保つことや、向き合わないなどの工夫をする。

③手指消毒の励行

- ・こまめな手洗いと手指消毒を行うこと。

④人混みを避ける

- ・3密(密閉空間、密集場所、密接場面)の回避。
- ・人混みにやむを得ず入る場合は、正しくマスクを着用すること。
- ・不要不急の外出、同居家族・チーム関係者以外との会食は控える。
- ・日常生活の場面でも、ソーシャルディスタンス(人との距離を2m、最低1m)を確保するように留意する。
- ・「新しい日常」「新しい生活様式」に適応し、飲食については、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みは避け、大人数での打ち上げは控える。

また、各地域の行政から示される感染症対策を遵守すること。

【2. チーム関係者の感染予防対策】

指導者、チーム代表者、チーム関係者は、感染予防対策を念頭に置きながら指導や接触を行うこと。

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメントに係る  
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【選手・チーム関係者用】

(1) 自宅・宿泊施設について

- ①起床後と自宅または宿泊施設出発前に検温を実施し、その他の場面でも体調不良者が出た場合には、すぐに検温・体調不良の詳細について情報収集を行う。
- ②検温により、37.5℃以上の発熱者、または新型コロナウイルス感染症を疑う症状を有する者は、チームに帯同させず（他者と交わらないよう）一時的に隔離し、「受診・相談センター」に連絡し今後の対応を相談すること。尚、病院での診察を受けるもしくはPCR検査を受検する場合は、大会本部に報告すること。
- ③宿舎では、中学生年齢につき危機管理上個室は推奨しないが、1部屋の宿泊人数を最低限に留めることが望ましい。複数人での宿泊の場合には、部屋内でのマスク着用などの飛沫対策、手指衛生などの接触感染予防対策に努めること。
- ④宿泊施設は、感染予防対策を十分に行っている施設を選択する。
- ⑤食事は、隣同士の距離を空けて十分な距離を保つことを心掛ける。
- ⑥原則、食事はビュッフェ形式を避けること。ただし、宿泊施設の都合によりビュッフェ形式の場合は、宿泊施設内の感染予防対策に従い、飛沫・接触感染対策を遵守すること。
- ⑦他のチームと宿泊施設が一緒の場合には、食事時間や入浴時間をずらすなど接触する機会を極力減らすこと。
- ⑧ミーティングを行う場合はマスクを着用し、隣同士の距離を空けて行うこと。
- ⑦各自の部屋に集まっての飲食は避け、マスク非着用下で大勢が集まり懇談することがないように注意する。
- ⑧監督、コーチ、その他チーム関係者は不要な外出は行わず、やむを得ず外出する場合はマスクを着用し、感染リスクの高まる行動はとらないこと。
- ⑨宿泊施設内の共有部分（ロビー、廊下、エレベーター等）では、マスクを着用すること。チェックインやチェックアウトの手続きは代表者（少人数）が行うこと。
- ⑩外部との接触（面会・会食）は控える。

(2) 移動について

- ①移動中は、マスクの着用と手指消毒を徹底する。
- ②移動中の車内換気を十分に行う。
- ③移動中の飲食には注意を払う。
- ④公共交通機関を利用する場合は、混みあう時間帯をなるべく避ける。

(3) 会場到着後について

- ①「健康チェックシート」（様式は全日本軟式野球連盟HPに掲載）に記入し、大会本部に提出する。提出者はチーム代表者1名とする。複数で来ることがないようにすること。

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメントに係る  
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【選手・チーム関係者用】

健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。その場合、自宅または宿泊施設に当該者は戻ること。戻る際は、公共交通機関は使用しないこと。

また、その他のチームはバスや自家用車などで待機することとし、大会主催者等から球場入りの指示または出場辞退勧告をチームに告げる。

また、同チェックシートの質問に「有」とチェックがあった者の球場への入場の可否については、大会主催者等がチーム代表者と協議して判断する。

②球場入口にて検温を行い、37.5℃以上あった場合は球場への入場を禁止する。

※球場入口での検温時に発熱が発覚した場合はチーム全員がバスに戻り、発熱者は公共交通機関以外の手段で宿泊施設または自宅に戻るか、病院を（必ず受診前に受診・相談センター及び医療機関に応需の可否を電話確認した上で）受診をすること。尚、移動の際は他者と接触しないように配慮すること。

③球場入口にて手指消毒を行い入場する。

④球場内は原則マスク着用とする（熱中症に注意し、十分な水分補給を行うこと。）

《試合前》

①控室ではマスクを着用し、密集、密接を避けるため、一度に入る人数も配慮すること。

②対戦チームならびに審判員、大会関係者等との接触は避ける。

③ウォーミングアップ時はマスクの着用は任意とする。

但し、マスクを着用する場合には熱中症に注意し、ウォーミングアップ前後で十分な水分補給を行うこと。

④試合前整列時、主将はバッテリーボックス付近に整列し、その他の選手はそれぞれの塁線上に外野方向に整列すること。握手はせずに、審判員の合図で一礼し試合が始まる。

《試合中》

①試合に出場している選手以外の控え選手及び監督・コーチ等のスタッフはマスク着用とする。（ベースコーチは除く）

②ダッグアウト内では、選手同士の間隔（1m程度）の確保に努める。

③素手でのハイタッチや握手を控える。

④唾を吐く行為、手を舐める行為は禁止する。

⑤ベンチ前の円陣や声出しは推奨しない。実施する場合は一定の間隔を保つ。

⑥監督が選手交代等で球審に近づく場合は、マスク着用の上一定の距離を取る。

⑦投手交代等でマウンドに集まる際には、できるだけ選手、監督との距離を取り、可能な限り接触を避ける。

⑧チーム共用の道具については、こまめに消毒を行う。

⑨タオル、ペットボトル、コップ等の共有は避ける。

⑩ベンチ内で出たゴミは各自持ち帰ること。

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメントに係る  
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【選手・チーム関係者用】

《試合終了後・ダッグアウトの入れ替え》

- ①チームは、大会主催者等の指示を受けてから、グラウンドやダッグアウト入りする。  
次チームの待機場所は、大会主催者等の指示に従う。
- ②試合終了後、チームの選手、チーム関係者は速やかに道具をまとめてダッグアウトから出る準備をすること。その際はマスク着用のこと。
- ③ダッグアウトを出る時には、極力、次チームとの接触は避けること。  
※大会主催者等から動線の確認や入退場の指示をする。
- ④次チームは、ダッグアウト内の消毒作業完了後、ダッグアウト内に荷物を入れる。
- ⑤取材対象者は、マスク着用でソーシャルディスタンスを保ち取材対応すること。

《大会中止および出場辞退勧告について》

事業・活動の可否判断は「参加チーム選手、チーム関係者、審判員、大会運営者、その他関係者の安全確保が最優先」であり、大会主催者等が総合的な判断を持って行う。

(1) 中止を検討しなければならない状況について

- ①感染拡大が懸念される場合
  - ・開催県および開催地の自治体により、感染拡大が懸念されると判断した場合。
- ②不可抗力によりチームが大会に参加できない場合
  - ・政府や都道府県内市区町村の自治体により大会参加に関わる部分的な制限が発令された場合。
  - ・開催県および開催地より移動制限・イベント開催制限がある場合。
- ③辞退によりチームが大会に参加できない場合
  - ・新型コロナウイルス感染症の影響によりチームが大会に参加できない場合を指す。
  - ・大会出場チーム数の20%(目安)以上の辞退チームがあった場合、大会を中止することを検討する。
  - ・新型コロナウイルス感染症の影響によりチームが参加を辞退した場合、ペナルティは課さない。

(2) 出場辞退勧告について

①主催者等は、大会期間中に緊急事態宣言地域の出場チームに対して出場辞退勧告ができる。

但し、開催地入り一週間前までにPCR検査を実施し、陰性が認められたチームの出場を認める。PCR検査を行う対象は、選手、監督、コーチ、責任者、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)、熱中症対策スタッフ(2名)とする。なお、応援のために帯同する保護者等のPCR検査も必須とする。なお、ワクチン接種の有無に関わらずPCR検査は必須とする。

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメントに係る  
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【選手・チーム関係者用】

- ②主催者等は、出場チームの回復期間が十分に確保されない場合は、原則として出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
- ③主催者等は、大会までに出場チームの陽性者の回復、濃厚接触者の隔離期間解除がなされない場合は、出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
- ④主催者等は、出場チームに感染疑いが生じて安全性の判明が間に合わない場合は、出場辞退を勧告すること、または参加資格を取り消すことができる。
- ⑤主催者等は、大会中に出場チーム(対戦相手チームの場合もある)に濃厚接触者や感染疑いが生じた場合は、出場辞退を勧告すること、または参加資格を取り消すことができる。
- ⑥主催者等は、大会中に出場チームに37.5℃以上の発熱者および別に記載の新型コロナウイルス感染症を考慮する症状を有する者が生じた場合は、出場辞退を勧告すること、または参加資格を取り消すことができる。
- ⑦主催者等は、対戦済みの相手(敗退したチーム)に感染疑いが発覚した場合、勝利して次戦がある当該チームに対して棄権を指示(勧告)できる。

(3)回復期間について

- ①新型コロナウイルス感染症と診断されたものは、当該地域保健所が指示する新型コロナウイルス感染症の療養完了日まで、指定場所で療養する。
- ②チーム内で新型コロナウイルス感染症と診断されたものが出た場合、発症日(症状が出た日)前日または前々日にチーム活動があった場合には、チーム関係者は感染可能期間に陽性者と接触していることから、濃厚接触の状況を保健所と確認し、状況把握が完了するまでチーム活動を自粛することを推奨する。
- ③前日、前々日とチーム活動がなかった場合(48時間以上接触がないといえる場合)、他に体調不良者が存在しないことを確認後、チーム活動を再開しても構わないが、その後体調不良者や感染を疑う症状者が出た場合には、状況把握が完了するまでチーム活動を再休止することを推奨する。
- ④活動の停止や大会参加への自粛が行われる場合、当該者はもちろん、選手間やチーム関係者等への誹謗中傷の防止に努めること。
- ⑤大会運営側は、個人が特定されないよう情報管理(体調不良者/感染疑い者/感染者など)の徹底に注意する。

※新型コロナウイルス感染症は、発症2日前(48時間)から伝播する可能性があるため、伝播リスクがある期間の接触有無を基準としている。

※上記内容は、選手だけではなく、チーム関係者(チーム代表者、監督、コーチ、マネージャー、トレーナー)の全てが対象となります。

大会前および大会期間中の体調管理ならびに行動にはくれぐれもご注意ください。

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメントに係る  
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【選手・チーム関係者用】

《チーム関係者の観戦時の感染予防対策について》

**観客席に入場できる者は、チーム関係者のみとし、1選手につき保護者2名までとする。  
但し、選手と同居する兄弟姉妹は人数に含まない。なお、中体連関係者は1チームにつ  
き2名まで来場を認めるが、緊急事態宣言地域からの来会の場合は、PCR検査において、  
陰性が認められた者のみとする。【一般関係者の入場を禁止する】**

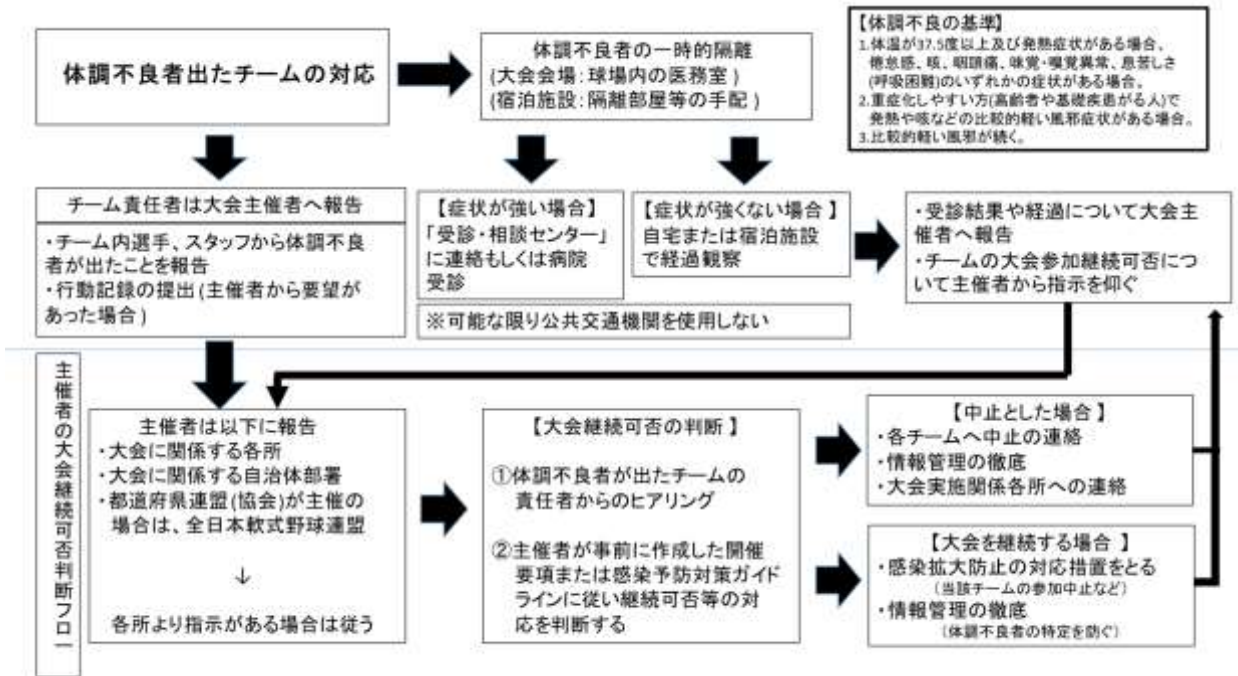
チーム関係者については各チームで観戦者の取りまとめを行い、観戦者の健康チェック  
シートの記入について周知すること。

- ①球場入口(観客席への入口)にて大会実行委員会による検温の実施  
※37.5℃以上の方の入場は禁止する。
- ②「健康チェックシート(ベンチ入り用・応援者用)」(様式は、全日本軟式野球連盟H  
Pに掲載)を大会実行委員会に提出すること。  
※検温終了後に健康チェックシートを提出してください。  
※体調不良の方の入場は禁止する。
- ③入場の際は、手指消毒を行うこと。
- ④観客席内は、飲食時以外マスクを着用する。但し、熱中症に注意すること。
- ⑤座席の間隔をあけて座ること(1~2m程度)。
- ⑥試合終了後、退席する際に除菌シートにて自席を消毒してから退席すること。  
※観客席が芝生やコンクリート席の場合は不要。  
※除菌シートは大会実行委員会からチームへお渡しします。
- ⑦以下の注意事項を遵守してください。

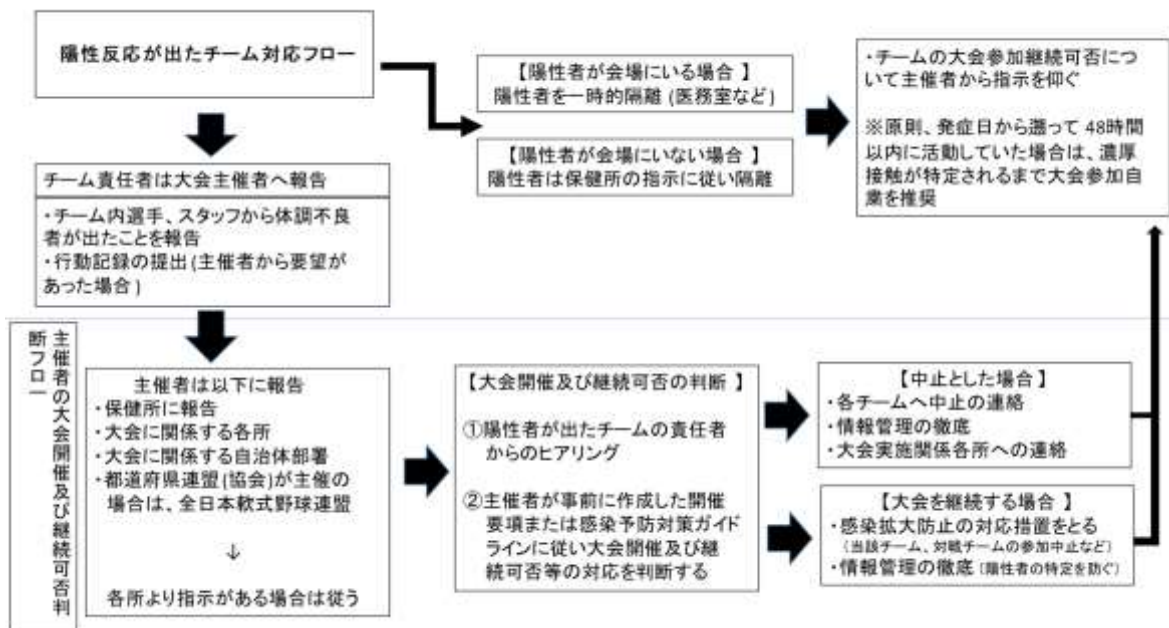
拍手	○
タオル等を横に広げて左右に振る	×(振り回すことは禁止)
ハイタッチ	×(手が触れなければ可)
鳴り物の応援	×(ラッパ等の呼気による鳴り物を使用しての応援は禁止)
指笛の応援	×
ホイッスル等の鳴り物応援	×
声援	×
肩組等集団での動きを伴う応援	×(チアリーディングによる応援も不可)

【大会中、体調不良者/陽性者/濃厚接触者が発生した場合のフロー】

①大会中に体調不良者が出た場合の対応フロー(選手・チーム関係者)

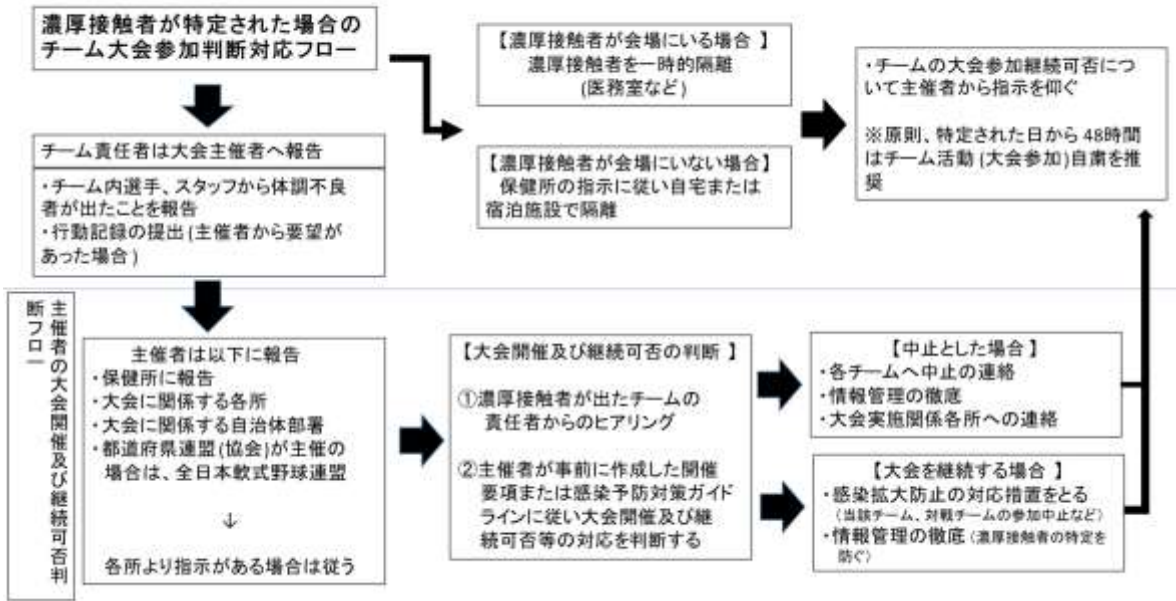


②大会中に陽性反応が出た場合の対応フロー(選手・チーム関係者)



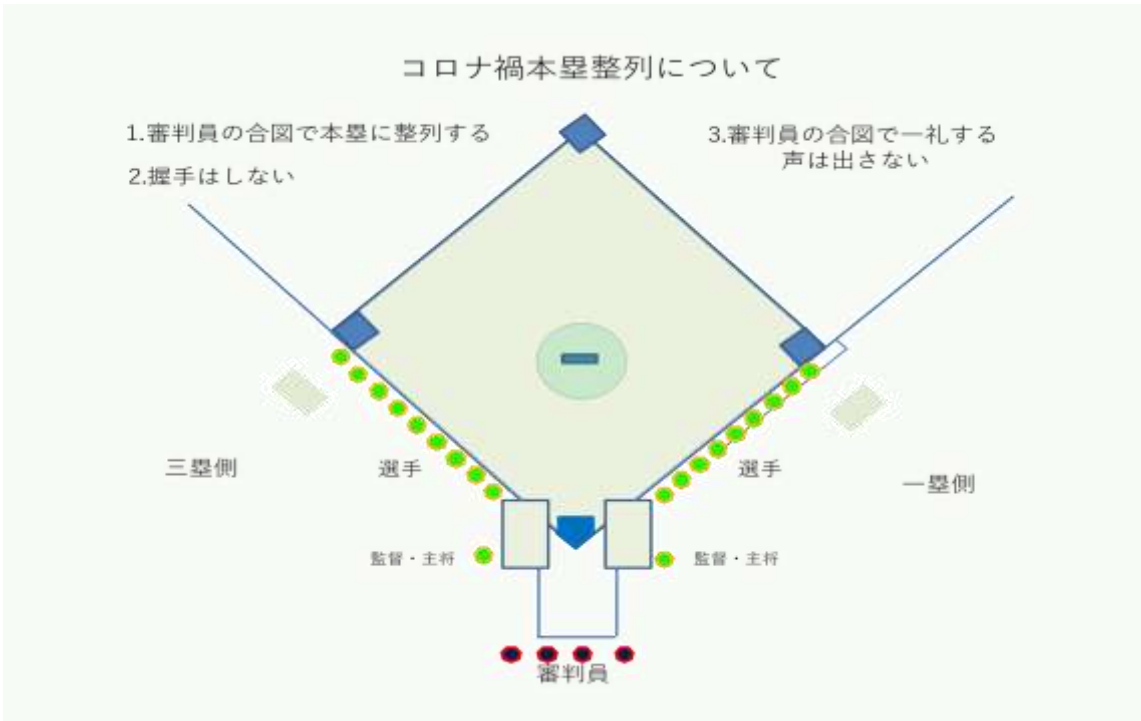


③濃厚接触者として特定された場合の大会参加判断フロー(選手・チーム関係者)



【資料】

コロナ禍の本塁整列について(参考)



以上